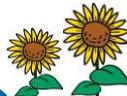




もせうし



教育目標：○心身ともに健康な子 ○よく学び、深く考える子 ○明るく、心豊かな子

妹背牛小学校

学校だより No.13

平成27年11月27日発行



青空が風花はらりプレゼント

校長 柳谷直明



6年生の河原君の堂々とした発表！

☆ すばらしい妹背小の子供たち！

学習発表会での子供たちのがんばりを多くの方から、称賛していただいています。特に、「特別支援学級の子供たちのがんばりに感動しました」との御感想を多くいただきました。

昨年度2学期から、特別支援学級3学級新設に向け、事務の先生を中心に校内体制を整えて

きました。補正予算を町で組んでいただき、使用する教室の工事を冬休みから行いました。そして、4月から特別支援学級5学級を含む12学級体制で学校運営を行っています。児童数114名で12学級なので、教員数が多く有難いです。皆様の御協力のお蔭様です。

何度も書いていますが、特別支援教育は特別支援学級だけでなく、全学級を対象とした教育です。教育の原点ともいえます。今年度、特別支援教育部という組織を作り、全学級の支援に取り組んでいます。来年度も全学級・全児童の支援体制を充実させます。学級間の格差が限りなく少ない、全ての子供に優しいユニバーサル・デザイン学校を目指します。



☆ 来年度の校内体制



来年度の学校体制を10月から校内で熟議しています。今年度は学校運営推進委員会という特別委員会を設け、校長の諮問組織として機能させています。来年度3年生の学級編成も諮問しました。校長としての考えもあります。しかし、現担任を含めた職員の意見も聞きたかったからです。

答申では、以下の理由で2学級とありました。

児童一人一人に対するきめ細やかな指導が必要なことから、少人数の学級運営が有効であること。

ギャングエイジと呼ばれる中学年の時期を2学級にすることによって、今後のグループ化による諸問題の解決に役立たせることができること。

デメリットが予想される教科時数の件については、今後の協議の中で考えることが可能なこと。



児童を優先させ、真剣に考えてくれている有難い職員です。私も同感です。

来年度更に、特別支援学級の児童が増える見込みです。そこで、5学級6定員という体制になり、教員が1名増えます。その教員は全学級の支援を行う予定です。1年生学級での支援時数を多くしますが、それに加えて、他学級での支援も行います。

2年生は今年度同様、複数教員が入ります。3年生も2学級にすると複数体制となり、町

の支援職員も更に依頼しています。

4年生は町の学習支援員を配置していただければ、複数体制にできる予定です。

5年生は学級担任と特別支援学級担任で複数体制にします。その特別支援学級担任は4～6年生の教科担任（図工か家庭科か理科など）を兼務する予定です。

6年生へは、教科担任と学習支援員が教科によって入り、担任の負担軽減を行います。

ことばの通級児童は来年度7名増の24名になる見込みです。そこで、通級担当教員1名増を道教委へ要望します。（これらは現段階での校長方針です。配置が決まった3月、校内人事を決定します。それまでは、予定です。）

このように、業務と指導の均衡化を今年度以上に取り組みます。来年度もより安心して、お子さんを預けていただけるクオリティの高い妹背牛小学校を目指します。

☆ パッシブ・ラーナー（受動的な学び手）からアクティブ・ラーナー（能動的な学び手）へ

次期『学習指導要領』改訂の重要な鍵は次の2点です。

□ カリキュラム・マネジメント / □ アクティブ・ラーニング

保護者アンケートの項目にも書いていますが、カリキュラムは学校教育の全体計画です。それを評価・改善・計画・実行（C・A・P・D）というマネジメント・サイクルで推進するのが、カリキュラム・マネジメントです。カリキュラム・マネジメントはどの学校でも行わなくてはならないのです。なぜなら、学校や子供の実態が地域によって違うからで

す。例えば妹背牛には、妹背牛独自の教育が必要です。教科書にある内容だけを扱う教育はカリキュラムとは呼べません。ところが多くの学校では、カリキュラム・マネジメントは効果的になされていません。そこで、カリキュラム・マネジメントが次期『学習指導要領』の鍵になったのでしょうか。

本校では今年度、国語科1・3・5年生の言語活動を少し手厚くしました。すると、その言語活動を全教科等で活用できるからです。3～5年生はポスター・セッション、6年生はパネル・ディスカッションという言語活動を活用して、「郷土妹背牛祭」の際に学習成果を発表します。

「郷土妹背牛」科へのカリキュラム・マネジメントは学習課題を郷土にただけでなく、学習方法の改善でもあるのです。表現力の効果的な活用場面の創設でもあるのです。



実はアクティブ・ラーニングという能動的学習方法も「郷土妹背牛」科で改善した発表方法を含んでいます。アクティブ・ラーニングというのは子供たちが能動的に学び合うという学習方法です。それは今に始まったのではなく、「言語活動の充実」として重点化された現行『学習指導要領』の発展的な継承になるのです。

国語科では、以前から言語活動を適正にするとして『学習指導要領』にありました。ところがなかなか適正にならなかったため、現行『学習指導要領』に国語科だけでなく、各教科等での「言語活動の充実」が求められました。そして、それが不十分なので、次はアクティブ・ラーニングとなったのでしょうか。例えば、「総合的な学習の時間」はもともとアクティブなのです。

この流れは本校の研究のようです。国語科で記述させ、表現力を育成する。表現できるように育った子供は自尊感情が高まり、自信を持って発表する。そして、その表現力は国語科だけでなく、全教科等で活用できるように育つ。表現力で自尊感情が高まった子供は国語学力向上に加え、児童会活動や「総合的な学習の時間」などで、堂々と発表できる子供に育つのです。相乗効果です。

今年度3年次研究が終了するので、次年度の校内研究重点課題は他課題になるでしょう。しかし、次年度のカリキュラム・マネジメントを更に徹底します。今年度得た成果は次年度以降もカリキュラムとして継承できるからです。短くてよいので1時間の中で記述する場面を作る。記述したものを発表する場面を作る。記述がなくても発表できるように全教科等で育てる。このような3年間の研究成果は次年度以降も本校の教科指導の特色の一つです。

☆ 2月25日に英検 Jr. を実施！

外国語活動での評価の一つとして英検 Jr. を本校で実施します。10名以上で実施可能です。受検希望者を3学期に募ります。

2月上旬に漢検・数検一斉模擬試験も全学年全員にさせますが、本物の漢検・数検・英検 Jr. にも、挑戦させませんか。

英検 Jr. は本校で初めて5・6年生を対象に実施します。費用は各御家庭負担ですが、是非、このチャンスを利用してほしいです。

☆ 第2回保護者アンケートの記述

学校通信13号にある通り、保護者の皆様から、高い評価を頂戴しました。有難いです。しかし、いくつかの課題もあります。できることから直ちに着手します。更に、これから行う年度末反省での改善策とともに、次年度の経営方針にも、改善事項を取り入れます。

以下、回答できる範囲で回答します。多くの御意見、有難うございました。

□ 「学校運営」





- ・4について……実際に、相談したことはないのによく分からない……という感じですが。
- ・子供の様子については、特に変わったとは思われませんが、楽しく学校に通っています

妹背牛の子供は素直です。言われたようにがんばろうとします。ところが学年が上がると、学習内容が増え、なかなか思うような成果を出せない子もいます。しかし、全員が間違いなく成長しています。是非とも、更に向上するよう成長を褒めて、自尊心を高めていきましょう。

□ 「教育課程・学習指導」

- ・「郷土妹背牛」と、いつの間にか学習に入っていますが、妹背牛が生まれ育った町として、自然に子供たちは好きになっていくと思われます。特に、授業としては必要ないと思います。
- ・郷土愛も必要だと思うが、獅子舞保存会の活動を広げていただきたい。メンバーの減少により活動がままならない現状がある。人数さえ確保できれば、活動の幅も広がるので、協力を願います。

児童アンケートによると、「妹背牛を誇りに思う、好き」の数値は高いです。しかし、全員ではありません。そこで郷土の良さ、価値を更に探求させ、先人の努力に対する畏敬と感動を与えたい、そして郷土愛をより高め、郷土の未来を創造する自尊感情の高い子供を育てたいです。昨年度までは課題解決というより、見学先優先の「総合的な学習の時間」でした。今年度は郷土の中で子供自らが課題を決め、調査による情報収集・整理を行い、発表するという理想的な探究活動を目指しています。このような探究活動は次期『学習指導要領』でも求められています。それはアクティブ・ラーニングで成立するからです。

是非、昨年度との学習内容の比較とともに、子供たちのすてきな発表を12月17日に御覧いただきたいです。郷土に学び、地域の皆様とともに郷土の価値を称え合う楽しい一日を過ごしましょう。保護者アンケートや地域

の方が「郷土妹背牛」科に期待してくださり、有難いです。(A+B評価89パーセント)

今年度獅子舞保存会の方に来校いただき、踊りを披露していただきました。新しく数名が加入してくれました。郷土の伝統文化も「郷土妹背牛」科の大切な課題です。

※ まだ回答し切れないので、次号へ続きます。

もう少し、お待ちください。

